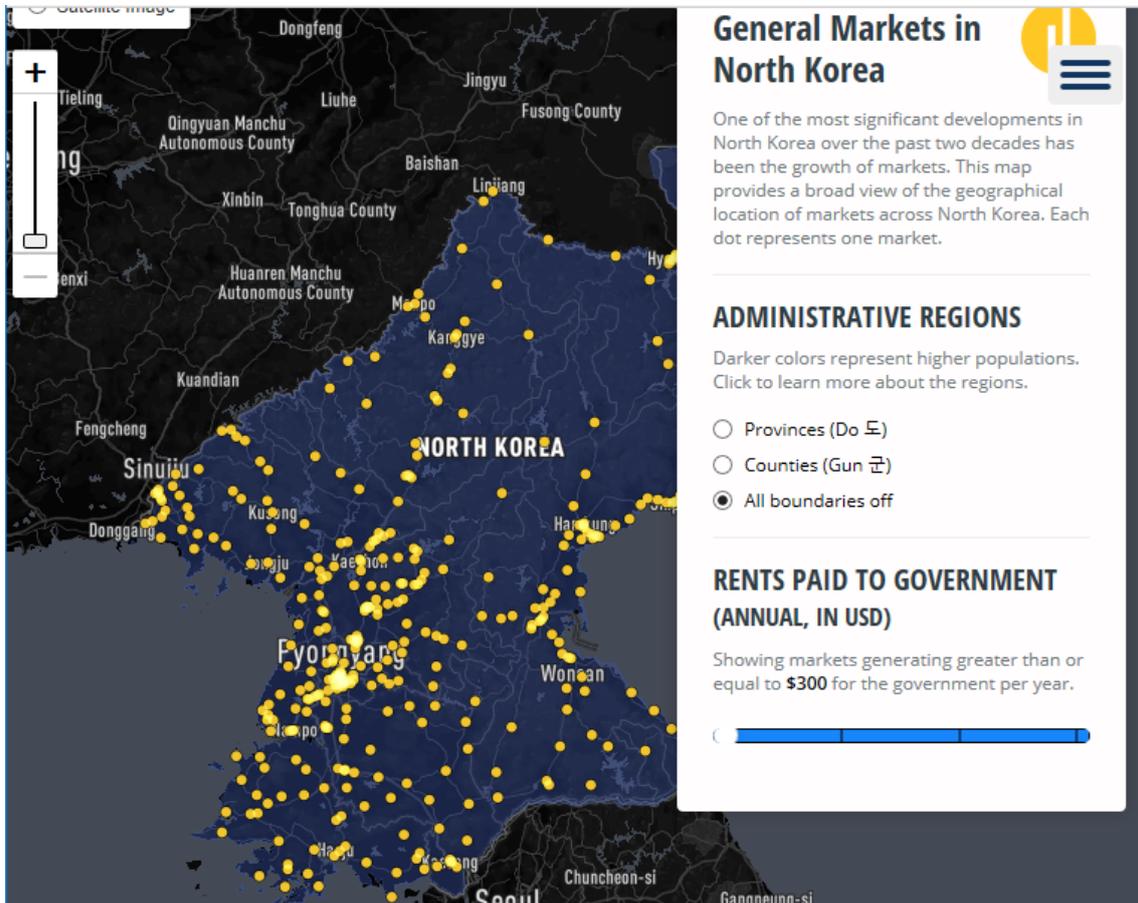


★北朝鮮の民間経済と資本主義

2018/8/26 Victor Cha and Lisa Collins 国際戦略研究所



政府公認の市場で「税金」をはらうことで操作されている。このほかに闇市場があるが、この地図には含まれていない。これは衛星写真と現場での取材、脱北者の証言を組み合わせて作成された。

◆調査結果の主な内容

◇全国に少なくとも 436 か所の政府公認市場がある。9つの地域に平均 48。大都市周辺が多い。

◇市場は 20 年前から市民の自発的な行動で始まった（ボトムアップの市場化）。政府の統制と衝突しながら次第に公然化した。政府は時折、弾圧したが、次第に戦術的に統制するようになり、拡大を認めるようになった。

◇税金や場所代などの名目で、政府に徴収されるのは毎年 5680 万ドルと推計される。他の推計では 280 万ドルから 6900 万ドルなどがある。市場の広さは 256 平方メートルから 23557 平方メートルまでさまざまだが、最大の市場は咸鏡北道「清津市の寿南」市場で 23,557 平方メートル。推定 849,329 ドルを政府が税金として徴収している。

◇これらの市場は北朝鮮社会に完全に根付いており、携帯電話や SNS、個人運輸のネ

ットワークを通じて結びつき、次第に民間経済を形成するようになっている。

◇取材に応じたすべての住民が政府の配給では充足できていないと回答、平均すると72%の収入を市場から得ている。83%の回答者が政府の決定より市場の動向に影響を受けていると答えている。

◆いつからこの市場がはじまったかについて専門家の見解はわかれているものの、ソ連の崩壊による援助のストップが契機になったことで一致している。配給制度が長く生活をささえていたがソ連の崩壊と1990年代の飢饉のあと市民は市場に活路を見出した。2002年から2003年にかけて政府は市場をある程度公認するようになり、中国との国境取引が利益をあげて繁栄した。市民が一番政権に怒りを表すのはこの市場を弾圧することで、調査した多くの人がビジネスでためたお金を治安当局に巻き上げられることと答えている。

◆市場のタイプ

公認の総合市場と闇市場がある。常設のものと定期的にかかれるものと両方ある。政府は2002年7月に経済改革の一環として公式に市場の設営を認めた。2003年5月にその運営規則を発表した。平壤の統一街市場が最初。その後全国に展開した。2002年に出された総合市場に関する規則は以下のとおり。道、国、地域の商務部と人民委員会は各地に1ないし2の総合市場を設置する。規模は人口30-40万都市には600店舗。40[^]50マンは900店舗。50-70マンは1200店舗。70マン以上の都市には2000店舗。生や改善、計画率案を責任もっておこなう、など。

(以上)